

2022年7月8日（金）第84回運輸政策セミナー
我が国における地域公共交通等の新たな地域経営手法を考える
～ドイツにおける「シュタットベルケ」の分析～
宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

本日も、大変多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の運輸政策セミナーでは、ドイツにおける「シュタットベルケ」による包括的な地域経営手法の分析を通じて、我が国における地域公共交通等の新たな経営のあり方について、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

我が国の地域公共交通については、ネットワーク全体を一体として捉えた事業運営や沿線開発等関連事業と一体で行う事業運営など、交通事業者の主体的な経営努力によって発展を遂げてきた伝統があります。

しかし、人口減少・高齢化の急速な進展に加え、COVID-19の影響により、地域公共交通は厳しい経営状況と交通サービスの低下に直面しており、地域特性に応じた事業運営手法の再設計が急務となっています。

一方、エネルギー供給を地域事業としても戦前から育んできたドイツでは、エネルギー供給と同様に公益性の高い公共交通も地域の事業として、いわば分野横断的に一体で運営する地域が多く存在します。

地球環境保全の観点、地域の持続可能性の確保の観点を含めて、地域公共交通を再生・強化していくための地域の解は一つではありませんが、現にドイツにおいて定着している、我が国とは別の角度からの一体運営手法も参考にして考えてみてはどうか、とこのセミナーを企画した次第です。

本日は、前国土交通政策研究所客員研究官、現日本住宅総合センター主任研究員の小谷将之様からシュタットベルケについてご講演いただき、交通経済研究所主任研究員の土方まりこ様、京都大学大学院教授の諸富徹様からコメントを頂いた後、当研究所の山内所長をコーディネータとして、我が国におけるシュタットベルケ導入の意義などについてパネルディスカッションを行います。

本セミナーを通じて、我が国の各地域において、地域住民ひとりひとりのウェルビーイングの実現を可能とする公共交通を再構築するために、これから何をすべきかについて考察する手掛かりが得られれば何よりと考えています。

なお、当研究所においては、新たに日本財団のご支援により創設されたグローバル調査・研究基金を活用して、欧州その他海外における最新の知見や実態をしっかりと把握しつつ、今年度から、我が国の公共交通事業の革新と運営基盤の強化を抜本的に図るための検討を開始いたします。

本日のセミナーが、皆様にとりまして真に有益なものとなることを期待して、冒頭の挨拶といたします。

本日はご参加いただき誠にありがとうございます。

(以上)